

平成20年度第2回千葉県スポーツ振興審議会 会議録

平成21年3月19日(木)
午後2時00分～午後3時50分
於 千葉県総合スポーツセンター
スポーツ科学センター研修室

<出席委員> (敬称略50音順)

荒井のり子	荒川 昇	浦井 孝夫	金澤 篤志	越川 悦子
篠田 哲彦	藤見 昌弘	蒔田 実	牧野由美枝	柳川 尚子

<出席事務局職員>

教育振興部体育課長	萩原 出
主幹兼学校体育室長	諸持耕太郎
主幹兼スポーツ振興室長	越川 均
学校体育室調整担当主査	東端 利樹
〃 指導主事	嶋田 武彦
〃 指導主事	黒川 康宏
スポーツ振興室主任指導主事	石見 涼二
〃 指導主事	山崎 成夫
〃 指導主事	川野 宏
〃 指導主事	平島 昭一
〃 指導主事	北林 栄峰
〃 主査	小川 豊
〃 副主査	倉持美恵子

国体関係

国体・全国障害者スポーツ大会局
大会総務課長 石渡 弘彦

< 次 第 >

- 1 開 会
- 2 委員紹介
- 3 挨拶
- 4 議 事
- 5 閉 会

< 議 事 >

○報告事項

- 1 体育施設指定管理について (体育課長)

「体育施設指定管理者」について説明させていただきます。

今回の指定管理を公募した施設は、千葉県総合スポーツセンター、千葉県総合スポーツセンター射撃場、千葉県総合スポーツセンター東総運動場、千葉県国際総合水泳場の4施設について指定管

理者の公募を行いました。その結果「千葉県体育施設指定管理者一覧」のとおり『千葉県総合スポーツセンター』は「千葉県体育協会・まちづくり公社グループ」に、『千葉県総合スポーツセンター射撃場』は「千葉県ライフル射撃協会」に、『千葉県総合スポーツセンター東総運動場』は「財団法人千葉県まちづくり公社」に、『千葉県国際総合水泳場』は「セントラルスポーツ・オーエンズグループ」に、それぞれ決定しました。

なお「射撃場」「東総運動場」「国際総合水泳場」については、平成18年度から本年度までの3年間、今回選定された管理者が指定管理者であり、今回再び選定されました。

「千葉県総合スポーツセンター」については、今回新たに公募された施設であります。

それぞれの施設の指定期間は、平成21年4月1日から平成26年3月31日までの5年間です。

【質問等】 特に無し

2 第49回全国体育指導委員研究協議会について

(体育課長)

続いて、第49回全国体育指導委員研究協議会が千葉県で開催されましたのでご報告いたします。第49回全国体育指導委員研究協議会(千葉大会)が平成20年11月27日(木)から28日(金)の2日間にわたり、千葉市「幕張メッセ」において、「時代の変化に対応した体育指導委員の役割～魅力ある地域スポーツを求めて～」を全体テーマに、全国の体育指導委員、行政、スポーツ関係者合わせて3,632名の参加のもと開催されました。柳川委員もこの会に出席され発言をいただきました。ありがとうございました。

開会式では、千葉県実行委員会「篠田会長」の開会挨拶に続き、「塩谷文部科学大臣」から主催者挨拶がありました。続いて、全国体育指導委員連合会の「斉藤会長」挨拶の後、全国各地から千葉にこられた方々に対し、千葉県を代表して、「植田副知事」から歓迎のことばが述べられました。表彰式の後、休憩をはさんでNPO法人ニッポンランナーズの「金 哲彦理事長」による「スポーツ指導者の役割とその重要性」について基調講演が行われ、「スポーツを核にした地域づくり」をテーマとしたパネルディスカッションでは、活発な提言がなされ、充実した協議会の幕開けとなりました。

本大会開催にあたりましては、開催準備委員会の発足から千葉県実行委員会を通して、先催県に学び本県の味を出せるよう「さわやかハート千葉」を合い言葉に、千葉県体育指導委員約2,000名が団結して、精力的に進めてまいりました。その千葉県体育指導委員一人ひとりが、企画運営に関わってきたことは、コーディネーターとしての必要な力を養うよい機会となり、地域スポーツの推進役として今後ますます積極的な活動が期待されるところです。

【質問等】

委員 会長として全国大会の主催をさせていただきました。

3年前に会長をお引き受けし、就任後すぐに木更津での関東大会開催に向けて取組み、また今回は全国大会を開催させていただきました。私は、体育指導委員の方々がそれぞれの地域で、懸命に生涯学習の振興という大きな目的に向かい、手弁当でご活躍をされているのを見たり聞いたりし、大変感銘を受けておりました。その延長線上として、今回のこの全国大会が円滑に行われたということであると思います。幕張メッセという箱が千葉県にあるということにおいては、何よりも他県の方々にとっては、とてもうらやましいということでした。千葉県では、この「幕張」と「かずさアカデミアパーク」と「成田空港」の3地点を核として、その延長線上を発展させていこうという新産業三角構想というものがあり、着々とこの構想が実現されていることを感じております。今回、皆様のご協力でこの全国大会が無事終了したことを大変うれしく思っております。本当にありがとうございました。

3 各種スポーツ大会結果について

(体育課長)

それでは最初に、北京で行われましたオリンピックとパラリンピックについてご報告いたします。北京オリンピックに出場した千葉県にゆかりのある選手は、男性が23名、女性が12名の計35名であります。出場種目は、資料にあるように全部で9種目で、日本の代表選手としてそれぞれが持てる力を発揮して活躍しました。この中でも特に、上野投手とバッテリーを組みソフトボールで金メダルを獲得した「峰 幸代選手」は、木更津総合高校の卒業生で、先日知事より「県民栄誉賞」を授与されました。

体操男子団体銀メダルの坂本功貴選手と、陸上競技400メートルリレーにおいて男子で我が国オリンピック初の銅メダルを獲得した高平慎士選手は、印旛郡にある順天堂大学に在学中もしくは卒業生で、二人とも千葉県知事賞を受賞しました。

また、北京パラリンピックにおいては、男性12名、女性2名の計14名が千葉県選手として出場されました。その中で車椅子テニス男子シングルス金メダルの国枝慎吾選手と、その国枝選手と男子ダブルスを組んで銅メダルを獲得した斎田悟司選手は、パラリンピック2大会連続のメダル獲得となりました。先日には、千葉県知事特別賞を受賞し、さらに厚生労働大臣表彰も受けました。

続けて、第63回国民体育大会の千葉県選手団の成績についてご報告いたします。

今大会における千葉県選手団の成績は、男女総合成績天皇杯は6位（昨年8位）、女子総合成績9位（昨年10位）であり、いずれも昨年より順位を上げ、男女総合成績では2年連続入賞を果たすことができました。競技別総合成績では、陸上競技、ボクシング、セーリング、軟式野球の4競技が優勝したのをはじめ、テニス、バスケットボール、ソフトボール、ライフル射撃、山岳、ゴルフが3位以内に入賞するなど好成績を収めることが出来ました。7年目を迎えた競技力向上推進本部事業を通じ、各競技団体が着実に力を蓄えつつあると実感するところです。この連続入賞を、今年の「トキめき新潟国体」につなげるとともに、来年に迫った「ゆめ半島千葉国体」での総合優勝を目指して、引き続き関係団体と連携を取りながら、一層の競技力向上に向けた事業を進めていきたいと考えております。

最後に、全国高等学校総合体育大会についてご報告いたします。本年度のインターハイは、さいたま市を中心に開催されました。サッカー競技では千葉県同士の決勝となりましたが、決勝戦当日が雷雨のため中止となり、船橋市立船橋高等学校と流通経済大学付属柏高等学校の両校が優勝となりました。船橋市立船橋高等学校は2年連続優勝であります。その他、ボクシングでは、習志野市立習志野高等学校が学校対抗で2年連続で優勝するなど団体個人を合わせた入賞数は69を数え、2010年のゆめ半島千葉国体に向け、期待の膨らむ選手が育っていることを強く感じております。

【質問等】 特に無し

○協議事項

「千葉県体育・スポーツ振興計画」に基づく事業計画について

(体育課長)

説明に入る前に、昨年7月に行われました第1回の審議会でいただいた意見について、ご報告申し上げます。

いきいきちばっ子コンテストにおける事業の広報の仕方について委員の方からご意見をいただきましたが、現在、本事業については、県教育委員会HP上で事業の紹介をしたり、各学校から報告された記録を公表するとともに、県教育委員会ニュースで「遊・友スポーツランキングちば大賞」の授与式の様子を紹介するなどしております。また、授与式の様子は、新聞社に毎回取材していただき、記事として掲載されております。これらに加えて参加拡大を図るため、各市町村教育委員会には、広報資料を送付し、公共機関での掲示や広報誌への掲載などによるPRの依頼をいたしました。その結果、参加状況が前年度に比べ一段と増加してまいりました。さらに、新年度は各学校に

ポスターを配布するなどして、一層参加校の拡大を図っていきたいと考えております。

次に、総合型地域スポーツクラブの活動場所に関して、公共施設（学校施設）を利用するに当たり協力があまり得られないとの指摘がありました。学校施設は、学校開放事業を行っているため、多くの利用団体がすでに利用しており、なかなか入る余地がないのが現実でございます。学校や各市町村に対して今後さらに総合型地域スポーツクラブについての理解を求めて行くよう働きかけてまいります。

次にゆめ半島千葉国体において「県民のスポーツに対する関心が高まる」ためのアピールをもっとして行くべきとの指摘を受けた件ですが、国体開催機運の醸成に向けた取組みは、今後ますます重要になると認識しております。国体そのものの広報も大切ですが、競技力向上推進本部としてはご指摘のとおり千葉県選手団「チームちば」の広報に一層充実を図る必要があると考えており、今年度は広報リーフレット「躍進チームちば」を2回発刊するとともに、来年度は有識者も交えた広報戦略会議の開催を予定しているところです。

本日もまた多くの意見をいただき、今後とも千葉県のスポーツ振興のために努力して行きたいと存じます。

それでは、5つの戦略についてご説明いたします。平成19年3月に5年計画の期間で策定された「千葉県体育・スポーツ振興計画」に基づき、事業を推進し、ちょうど2年を経過しました。今年度新たに委員になられた方々もおられますので、はじめに5つの戦略について、簡単に説明をさせていただきます。この「千葉県体育・スポーツ振興計画」は『スポーツや健康づくりの運動を習慣化し、自分の健康は自分で守る活力ある県民を増やす』という基本理念に基づき、その達成に向けての方策として次の5つの項目を戦略として定めました。1つ目が「子どもたちの生涯にわたる健康とスポーツ環境を拡大する戦略」、2つ目が「県民の健康・活力を高める戦略」、3つ目が「地域のスポーツ環境を整備する戦略」、4つ目が「ちばの競技力を育てる戦略」、5つ目が「第65回国民体育大会・第10回全国障害者スポーツ大会を成功させよう」であります。そしてそれぞれの戦略に基づく具体的な取組（事業）として、資料に提示されているような内容があります。

今回は各担当課でこの2年間取組んできた各戦略ごとの内容や成果について、資料に基づいてご協議、ご意見を賜りたいと存じます。よろしく申し上げます。

戦略1

それでは「戦略1」について、説明いたします。

戦略1は「子どもたちの生涯にわたる健康とスポーツ環境を拡大する戦略」として、主に「学校安全保健課」及び「健康づくり支援課」による食育に関する事業と「体育課」による体力づくりに関する事業があります。

まず、学校安全保健課の「いきいきちばっ子健康・体力づくりモデルプラン」について説明いたします。子どもたちの健康課題解決や健康教育の推進を図るため、平成18年度に「いきいきちばっ子健康・体力づくりモデルプラン」を策定し、翌19年度、リーフレットや冊子の配布、実践発表会等により普及・啓発に努めてまいりました。平成20年度については、各教育事務所ごとに小学校または中学校を1校指定し、その研究成果を幅広く普及するため発表会やミニ集会等を開催しました。さらに、実践事例集を作成し研究指定校での取組状況やより効果的な活用方法について県内各小中学校に紹介しました。今後は、実践事例集等を生かしてより効果的な活用促進を図ってまいります。また、平成17年度から食に関する学習ノート「いきいきちばっ子」を県内全小学生対象に、1・3・5年時に配布しています。子どもたち一人ひとりが楽しく「食」について学びながら、自らの食生活を振り返り、より望ましい食生活を身につけられることを願って作成しました。教科・総合的な学習の時間・特別活動・給食の時間等で学習の教材や資料として、また家庭との連携の材料として活用されています。

次に体育課で取組んでいる、いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」について説明いたします。この事業は、各学校の実態に応じて体育の授業や業間休み・昼休み・運動

部活動の補強運動等の時間に仲間と楽しく協力しながら7種類の運動に取り組むことで、積極的な外遊びや運動する機会を奨励するものです。併せて、走る力や投げる力などの基礎的な体力・運動能力を向上させることや、運動をとおして仲間とのコミュニケーションを高めることなどもねらいとして取り組んでいます。そして、各学校から報告された記録を県教育委員会HPで公表したり、3期に分けて部門別ランキング1位となったものや最も積極的に取り組んだ学校を表彰することで、活動の意欲化・継続化を図っています。平成20年度は、年間で374校から15,850件の記録の申込みがありました。昨年度と比較すると、参加校で65校、記録申込み総数で8,006件上回っており、約2倍に増加しています。その結果、「前期」は神崎町立神崎小学校に、「中期」は大網白里町立季美の森小学校に、「後期」は船橋市立葛飾中学校に、学校賞として「遊・友スポーツランキングちば大賞」を授与しました。そして「年間大賞」は大網白里町立季美の森小学校に授与しました。今後とも、ポスター配布など積極的な広報活動とともに、教育事務所や市町村教育委員会等の協力を得ながら一層の普及に努めてまいりたいと考えております。なお、これに伴う補助資料がありますのでそちらもご参照ください。よろしく申し上げます。

【質問等】

委員 1から5までのそれぞれの戦略における予算について、概ねいくらかの予算がかかっているか、わかれば教えてほしい。

事務局 体育課の、いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の事業については予算はかかっておりません。

事務局 「食に関する学習ノートいきいきちばっ子」については、平成20年度に18万部作成し、989万1千円の費用がかかっています。

委員 各戦略ごとの全体の予算について、概ねでよいのでわかれば後で教えてほしい。

委員 参加校がすごく伸びてよかったと思う。この事業が子どもたちの体力向上につながっていくとうれしい。表彰式にオリンピックの代表選手やメダリストに来てもらい、表彰してもらうことはできないか。メディアでも扱いやすいし、一緒に写真をとったりすると子どもたちの励みになるのではないか。

事務局 難しい面もあると思いますが、工夫してみたいと思います。今年の表彰には、そういう優秀な選手を連れて行くことは考えていなかったが、国体が近づいたことで、チーバくんの着ぐるみを後期の中学校表彰に初めて連れて行きました。前期中期が小学校だったのですが、そのとき連れて行けばよかったと今になって思います。その中学校においては、いつもは硬い感じの表彰式なのが、チーバくんが登場したときにワーという歓声があり、国体のPRにもなり、今回工夫してみて大変よかったと感じました。

委員 先日に県の表彰があり、結構有名選手が出席していた。謝礼は出せないがあの方々に都合がつけばボランティアとして協力してもらえたら子どもたちは喜ぶと思います。

委員 一緒に写真に写ったりするなど、それだけでも張りが出てくるのではないのでしょうか。

委員 体力運動能力調査の中学校の全国1位については、この事業の成果といってよいのではないだろうか。

事務局 県としてもそう考えたいが、始めたのが2年前で、それがすぐ成果としてでるとは、はっきりいえません。しかし、そういう取組は各学校で今までもずっとやられていたことであり、そのことが結果に結びついたと考えていきたいと思えます。

委員 千葉県が全国の頂点となり、今度はそれを死守する立場として大変だが、今後も頑張っていってほしい。

委員 今の話に、水を差すようだが、あのデータは千葉県の中の8校のデータだとある時伺ったことがあるがそれは本当なのか。全体のデータではなく、モデル校的な8校の学校のデータだと聞いたのだがどうなのか。

事務局 どこからそういう話が出たかわかりませんが、文部科学省が全国のすべての小学校の5年生と中学校2年生を対象としてデータを求めてやっている全国調査です。強制はできないので希望するところでやってもらっています。その8校のデータというのは、もしかするとあるひとつの市町村においての参加数のことをいっているのではないかと思います。

委員 千葉県の参加率はどのくらいなのか。

事務局 およそ5割くらいであります。

委員 もっと多くの学校が参加するようにしたほうがよいと思う。できれば全部の学校が参加できないか。最近、行政が地方に対し弱くなっているのを感じる。このことについての参加・不参加は先生方の意識のあり方の差によることが大きいのではないかと思います。

事務局 いろいろな会議でお願いをしていますが、各市町村においても教育長が先頭となって声をかけてほしいと思っています。

委員 県はもう少し強力に市町村の委員会に対して推進していいと思う。県はそういう立場にあるのだからもっともっと積極的にぜひ進めてほしい。

委員 そのとおりだと思う。行政が弱くなってきているので、スポーツ振興審議会でこういう意見が出たということのアピールしてもっと強力にやってほしい。

委員 中学2年生の競技力は全国的にみてどうなのか。

事務局 具体的な内容の回答はできませんが、全国大会等において優秀な成績を収めた選手は、小中学校体育連盟で毎年表彰しております。その数はいつもだと50名～60名ですが、去年は100名を超えていました。

中学生の競技力はかなり上向きになっていると感じています。逆に高校生は今少し落ちている状況であります。

委員 運動部活動指導者を対象とした実技を中心とした講習会というのは、どのような内容なのか。

事務局 学校の部活動の顧問につきましても、学生時代に専門にやってきた人もいれば、ほとんど経験のない人もおります。経験の浅い人を対象に、実技や安全面も配慮した子どもの指導について、全般的な理論と実際に体を動かした実技の講習会を2日間の日程で行っております。

委員 最近、部活動を指導される先生方が少なくなったと聞くので、地域の方々との連携ということについて少し考えていったらどうかと思います。また、学校の先生方に総合型地域スポーツクラブに関する理解が進まないということに対して、この講習会の中で、そういう意識の啓発を図ることはできないだろうか。実技講習を1日ないし2日間くらいやって

も、ある程度基礎的な力を持っていけば実技のレベルが上がるが初めての人が実技をやってもあまりレベルは上がらないのではないかと思う。むしろ幅広い情報提供などを講習会に組み入れてみてはどうだろうか。

事務局 総合型地域スポーツクラブについては、学校に対して話していくことは必要だと思います。今後、いろいろ工夫してまいります。

戦略2

それでは、次に「戦略2」について説明いたします。

戦略2は「県民の健康・活力を高める戦略」として、健康福祉部の「健康づくり支援課」と「高齢者福祉課」及び「障害福祉課」がそれぞれ県民の健康づくりの事業を推進しているところです。

まず「ふさのくにマップ」ですが、生活習慣病などを引き起こすメタボリックシンドロームの予防のための運動習慣定着を目指し、成人が一日に必要なとする運動量とされる300キロカロリーに相当する距離で県内47市町村から104コースのウォーキングコースを設定しました。

これについては、健康づくり支援課健康推進室ホームページに、市町村別の全コースを掲載しております。次に、健康生活コーディネート事業ですが、千葉県が「健康づくりふるさと構想」で打ち出した健康づくり政策で、一人ひとりの状況に応じた健康づくりの目標設定と目標達成に向けた行動等を提案し、総合的・継続的に支援してまいります。また、障害者スポーツレクリエーションセンターは、様々な障害を持つ方を対象としたスポーツ活動やボランティアの育成及び派遣等、障害者スポーツ振興における県の拠点として稲毛区天台にあります。センターの利用者は今年度12月末現在で40,862名あり年々増加しております。以上です。

【質問等】

委員 この部分は体育課以外の知事部局の関係課で行う計画で、今回資料として掲載されているのですが、何かお互いの事業について連絡会議等はあるのでしょうか。

事務局 今回審議会を開催するにあたり、担当者として各関係各課担当者に特にこの2年間の事業内容についての進捗状況等の資料提供を求め、それを元にこの資料を作成しました。特に普段から強い横のつながりを持ち連携して取組んでいることはありません。

委員 先ほど私が予算を質問したのは、このことに関連してしたものであります。体育課が中心となって千葉県体育・スポーツ振興計画の推進をしていく中で、各事業に関わる全体を把握していないとリーダーシップがとれないと考えたからであります。

委員 担当の課がここにいないのでは、質問したことに対して後で説明していただけるようなことがないと資料を見て終わってしまうような気がしますがどうなのですか。

事務局 それに関しては、資料の内容については各課の担当者と打ち合わせをしており、ある程度の内容は把握しています。また関係する資料も持ってきているので、質問に対する準備をしてきております。

委員 この会議の内容について、委員の意見や質問等が各課に伝えられることにはなっているのですか。

事務局 そのようになっております。本日答えられることは答え、そうでないことについては担

当課から回答を求め、後日報告いたします。

委員 事業の進め方として体育課が中心となってやっているのはわかるが、横の連携がない中では「千葉県体育・スポーツ振興計画」が本当に一体となって進んでいけるのかという懸念を感じますがそれについてはどうですか。

事務局 確かに策定するときには県のいろいろなつながりの中でやってきたが、2年経過する中で人も変わり手薄になったこともあり、もっと綿密に進め方とかを考えていかななくてはいけないと考えます。ただ、今回の審議会については、担当者が個別にそれぞれの各課の担当者の打ち合わせをしているので、あまり細かいところまでは対応しきれないことはありますができうる限りの回答をしてまいりたいと思います。

委員 県教委と知事部局の連携という点から見ると非常に良いのですが、実際にそれが事業としてどう反映し、どう評価し次の計画につながっていくかという点ではどうなのでしょう。他の課もみんなこういう形なのでしょうか。

事務局 たとえば、健康づくりや男女共同参画などについては、教育委員会に関わる内容について、知事部局から問い合わせがきたりしております、今までのところそういうやり方で進めていっているのが実態であります。

委員 知事部局は予算を持っていて教育委員会はお金がなく、そういう中で本当にいろいろな面で中心となり、リーダーシップがとれるのだろうか。中心となる課がリーダーシップのとれる行政であることを期待したい。

委員 ふさのくに歩いて健康マップについて、たとえば体育課と健康づくり支援課が共同して全市町村一斉で行うとか、リレー形式で行うとか県全体のイベントとして行うことはできないだろうか。国体を目指して各市町村をウォークリレーでつないで県民の意識を盛り上げていけないだろうか。体育指導委員は全市町村にいますからそういう方々の協力を得れば行えるのではないのでしょうか。

日本ウォーキング協会と健康・体力づくり事業財団で、来年からウォーク1800というものを始めようとしている。これは新聞社や地域の人と協力して、日本全部の市町村をウォーキングでつないでいこうというものであるが、これを千葉県バージョンとしてやってみたり、最近、JR東日本などで「駅からウォーク」がありますが、こういったところと連携してみたらどうか。お金もそうかからないのではないかと思います。

委員 それは、受ける場合は健康づくり支援課が受けて、そこに体育課が協力するという形になるのでしょうか。

委員 それは体育課でも健康づくり支援課でも県民にとってはどちらでもよいと思います。体育指導委員は全市町村の教育委員会にいますので、それに関しては体育課で音頭をとってもらえばありがたいと思います。

委員 体育スポーツの専門家は体育課の方にいき、健康の方は保健師や栄養士とかいわゆるもともと運動が好きじゃない人が集まっている。だから両方でタイアップしてお金は出すけど仕事はやってくださいという話になるとどうなのだろうか。

事務局 以前体育課で仕事をしていて、現在健康づくり支援課で仕事をしている職員がおり個別にお互いの仕事のそういう話をしたりしています。お互い協力できるところは協力してやっていきたいと思っています。

委員 ねんりんピックというものはどういうものですか。

事務局 正式名称は全国健康福祉祭といい、ねんりんピックというのは愛称です。厚生労働省と開催県及び財団法人長寿社会開発センターが主催し、昭和63年に第1回の大会を兵庫で開催しております。60歳以上の高齢者を中心とするゲートボールや卓球などの各種スポーツ競技や音楽文化祭などの文化イベントや子どもフェスティバルもあり、あらゆる世代の人たちが楽しめる総合的な祭典であります。毎年4日間にわたって開催されています。

事務局 高齢者の方を対象にした文部科学省における全国スポーツレクリエーション祭というものもあります。

委員 こういう大会について、初めて知ったのだが、どういうふうになアナウンスをし、募集をしているのですか。

事務局 高齢者福祉課で参加する人たちや団体に呼びかけて選考しているのではないかと思います。調べて後で報告いたします。

事務局 先ほどの予算の件ですが報告します。

体育課の予算のみですがまず戦略1について、主に学校体育関係の研修会、研究大会にかかる費用としておよそ1,100万円、戦略2については体育関連の予算はございません。戦略3についての主なものとしては全国スポーツレクリエーション祭派遣事業派遣費等と社会体育関係の研修会等で、およそ1,100万円、戦略4については、競技力向上推進本部事業、国体の派遣事業、国際千葉駅伝、日・韓・中競技会、体育協会補助金等におよそ3億3500万円、戦略5については体育課の予算はございません。以上です

戦略3

それでは続いて「戦略3」について、説明いたします。

この「地域のスポーツ環境を整備する戦略」については「体育課」の事業として、特に「総合型地域スポーツクラブの育成や定着を支援する」という事業に取り組んでいます。総合型地域スポーツクラブは、子どもから高齢者まで参画できるスポーツ活動の場として、県民の健康の保持増進とともに地域住民の交流の場としても大きな役割を担っております。資料にあるように平成21年2月末現在23市町に45クラブが設立されました。さらに平成22年度までに29市町56クラブが設立する予定で、今後は未育成市町村に重点的に働きかけるとともに、設立したクラブが継続していけるような態勢づくりも合わせて行います。平成21年度からは、千葉県広域スポーツセンターが体育課内に移り、クラブの設立及び支援事業を行うこととなり、体育協会との連携・協力のもと、クラブの設立と定着に関する支援を今後さらに進めてまいります。併せて事業主体も「総合型地域スポーツクラブ創設支援事業」として国から「独立行政法人 日本スポーツ振興センター」に移り、更なる全国展開をすることとなりました。今回の資料には、指導者の育成をはじめ、クラブ設立に向けた取組及び今後の課題や方向性についてまとめました。平成22年までに、全国の市町村に最低ひとつはクラブを設立するという国の目標が掲げられておりますが、現実的にいいますとなかなか千葉県は達成は難しいところも感じております。市町村の意識の温度差も感じるところであります。ご意見等をよろしくお願いたします。

【質問等】

委員 totoの配分が21年度は100億円ありましたが、申し込みが少なく半分しか活用

されていないようであります。50億円について、追加募集をしましたがなかなか申し出がなかったと聞いています。各総合型地域スポーツクラブにできるだけ申し込むように働きかけたらどうでしょうか。今は、そういうためのお金があるので、申し込みをしたらもらえる確率が非常に高いと思います。ただ、条件としてはNPO法人という法人格を持っていないとはなりません。体育課の予算は1,100万円くらいしかないのでしたら、総合型地域スポーツクラブから申し込んで、t o t oにもらえばよいのではないかと思います。県教委としても、できるだけもらう方向で指導していったらどうでしょうか。

委員 四街道なのですが、設立に向けて取組む中で、最初はみんなそれぞれいろいろな意見が多くあり、收拾つかなくてうまくできないのではないかと不安の声がありましたが、まず、できることから始めていったらどうかという行政の指導を受け、コーディネーターの人が中心になって、やっと来年をめどに設立に向かって進んでいき始めたところであり、ジュニア、軽スポーツ、健康づくり、レクリエーション協会の4部門におけるプレ事業に、私自身も準備委員会として携わって参加する中で、各種スポーツ団体のいろいろな方々とコミュニケーションができていき、やはり総合型地域スポーツクラブは多くの人との関わりの中で自分が知らなかったことを多く体験できる場だということを感じました。最初からそう構えて広げなくても、できることから始めていけば無理なくやっていると準備委員会の人たちと確認することができました。特に健康部門においてはニーズが高まっており、参加者が多く集まり、8クラスの教室ができるほどになりました。軽スポーツも最初は低迷気味でしたが、スポーツ指導員の人たちが懸命にやるその姿を教室の人たちがみて、自然に、じゃあ私たちも協力しようよというサポーターが出てくるようになりました。現在、教室によってはサポーターが主となって指導にあたるなど、少しずつ協力態勢が整いつつある状況になってきました。総合型地域スポーツクラブそのものの意義が出てきていると感じています。

委員 千葉県では、すでに設立したクラブに対してどのようなことをやっているのですか。

事務局 県では千葉県の広域スポーツセンター事業の中で県内を6つに分けて広域ブロック研修会を行っています。設立してない地域を主として廻っていますが、他の地域も研修会の開催や県内の設立したところで、情報交換会（クラブサミット）を年1回開催しています。

委員 NPO等の法人格がないとt o t oに直接申請はできないが日本体育協会は2月に総合型地域クラブ全国協議会を設立し、加盟することによってNPO等でなくても日本体育協会が代わりに申請してくれて育成のための支援を受けられるようにすることを考えているそう。県として研修会等には力を入れているが、財政に関しては難しいというのであれば、何かしらお金が入ってくるような情報を流していくことも大事ではないかと思う。

事務局 財政の援助の面においては、千葉県スポーツ振興基金というものがあり、県内の総合型地域スポーツクラブに対し、設立してから3年間、毎年10万円の支援を行っております。

委員 クラブを立ち上げたときに日本体育協会からかなりの補助金があります。さらに今の話のように3回ぐらいの支援がされていますが、いつまでもこの財政支援をクラブにやっていくことはどうなのかと思う。そもそも総合型地域スポーツクラブというものは自分たちが活動する費用は自分たちで出して運営していくというのが本来の在り方です。いつまでも国や県あるいはt o t oから助成金をもらうことは、自立するのがどんどん遅れてしまうことになるのではないのでしょうか。

委員 確かに国費が日本体育協会を通じていくのは立ち上げ前のことであります。設立後については自分でやりなさいということです。しかし自分でやりなさいといってもなかなか大変だからt o t oが補助金を出すということになっています。体育協会に加盟してもら

えません。法人格を持ったところでないと申請は無理です。

委員 いずれにしても、こういった情報をどんどん流して行ってそれを総合型地域スポーツクラブがそれを選択して得るべく力を持つことが大事ではないかと考えます。

委員 体育協会の運営協議会の方から県内の加盟クラブには、そういう情報を流しております。

委員 資料の中の育成支援の成果と課題に、クラブ設立に理解を示さない市町村へのアプローチとありますが、理解を示さない理由とは具体的にはどんなことですか。

事務局 総合型地域スポーツクラブの設立については、地域の参加する方々から声上がる場合と行政が設立して行こうという場合の2通りが考えられますが、特に行政から話を聞きますと総合型地域スポーツクラブそのものの必要性を感じないということ意見がありました。

委員 それに変わる組織があるとか、そういうことなのでしょうか。

委員 学校開放等を利用し、活発に活動しているクラブがすでにあるのだから、何も総合型地域スポーツクラブにしていなくてもよいのではないかという意見はある。また、総合型地域スポーツクラブは、本当はそうでなくてもいいのだが、いくつかの他の種目と一緒にやっていくものだということで、それなら今のままでやったほうがよいという意識が強くなります。

委員 課題の一つとして、学校開放からスポーツクラブを創ろうとしたことにあるのではないかと思います。学校開放については文部科学省、都道府県教委、市町村教委という行政ルートで進めようとし、それで今のように学校開放が一番充実してきました。お金が体育協会からクラブに行くことについても、市町村としては何で民間団体の体育協会からいろいろ言われなくてはいけないのかという声が聞かれます。行政と民間とがうまくいっていないということではなからうか。

委員 スポーツプログラマーや社会体育公認指導員の育成について、20年以上もこの事業を続けていますが、今まで何人くらい養成し、またいつまでこのスポーツプログラマーや社会体育公認指導員の養成を続けていくのでしょうか。それによって県の生涯スポーツ振興にどれだけ貢献し、どのように効果を挙げているのかをぜひ検証していただきたい。クラブマネージャーは、総合型地域スポーツクラブを養成していくには絶対必要な人材なのでこちらに淘汰して重点的にマネージャーを育てていくことを考えても良いのではないかと思います。これは要望です。

事務局 千葉県の指導員としての資格を取ると、国の資格の免除ができるということもあり、参加者の負担軽減にもつながることなので、やり方を少し変えることなどについて、今後考えていきたいと思えます。

事務局 昨年の県で認定しているスポーツ指導者と市町村の担当者に対してアンケートをとりました。そうしたところ、修了者の内の80%の人たちが現在活動しているという結果が出ております。かなりの方が活動されており、今までやってきたことの成果は上がっていると考えています。ただ、修了者が都市部に集中しているおり、このことを受けて平成21年度からは、北総、東上総、南房総の指導者の少ない各地域での研修会を予定しております。

委員 現場から言わせてもらおうと、例えば行政関係の教室を持たせてもらっていますが、もう少し続けていきたいという場合には、自主的なサークル活動に入ります。その中で指導

者になれそうな地元の人に指導者の推薦をして講習を受けてもらい、指導者の資格を取ってもらおう。そうすると指導者の資格を持つことで自信となりその人にそのサークルを任せられるようになります。今までにそういう例がずいぶんありました。そのように地域に指導者が育ち、サークル活動が進んできたことも多くありました。ただ、若い人になかなか入ってもらえなくて、サークルに参加してくる人がどんどん高齢化しており、60歳から70歳近くなってきた人がそれを引き継ぐには、ウォークをひとつやっけて行くにもストレッチや筋肉トレーニングをまず入れてからということになる。それを一つ一つ指導していくのは大変である。指導者が少ないこういう地域で指導をしていただければ、そのシステムをより有効に活用できるのではないかと思います。

委員 私たちが年を重ねてきて限界をある程度感じたときに、新たな指導者としてクラブと一緒にやってた方々が勉強するための研修会を持っていただけるとありがたい。

戦略4

次に、ちばの競技力を育てる戦略について、説明させていただきます。

この事業も「体育課」の事業として来年の「ゆめ半島ちば国体」に向けた、選手の競技力向上と広く多くの県民がスポーツに親しむとともに、スポーツを通してお互いの交流を深めることを目指した事業です。この戦略で中心となるのは、平成14年に策定された「競技力向上推進総合計画」に基づいて、計画・実施されている「千葉県競技力向上推進本部事業」となります。

総合計画の基本理念には、来年の「ゆめ半島千葉国体」で天皇杯・皇后杯の獲得を目指すことはもちろん、スポーツの振興を通じて活力と希望に満ちた生涯スポーツ社会の実現が盛り込まれています。総合計画は、昨年度から仕上げの躍進期を迎え、戦略の1から5の具体的取組ともリンクしながら、地元国体での本県選手の大活躍と地域・県民が一体となった大会の盛り上がりを目指して事業の拡充を進めているところです。

今後、国体開催を契機とした本県競技力の向上が恒常的なものとなるための方策について、関係者と連携して取り組む必要があると考えています。

先ほどの、インターハイや国民体育大会の結果とあわせ、委員の皆様から、多くの御意見をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

【質問等】

委員 男女総合優勝、女子総合優勝が目的・目標ということでしょうか。

事務局 そうです。

委員 その目的は、県が言っているのですか、体育協会が言っているのですか。

事務局 両方あります。

委員 優勝するということを明確な目標としておいた方が、それに向かって具体的な施策が強力に進めていけることになると思います。

事務局 知事も今まではあまりはつきりおっしゃらなかったのがある時「一番になると良いね」という話をされましたし、我々は元々そういう考えでいましたので、是非1位を目指していきたいと思います。日本一の感動を県民とともに味わいたいと思います。

戦略 5

○説明事項 ゆめ半島千葉国体・ゆめ半島千葉大会について

国体・全国障害者スポーツ大会局 (大会総務課長)

9月25日から10月5日の11日間の国体の会期であります。全体で正式競技、公開競技含めまして39競技が県内32の市や町で開催されます。開会式につきましては千葉マリスタジアムで、閉会式につきましてはここ天台の陸上競技場で行います。障害者スポーツ大会につきましては10月23日から25日までの3日間、それぞれ6市1町13競技が実施されます。開閉会式につきましては屋内の幕張メッセで行います。

それでは、国体・全国障害者スポーツ大会に関する準備状況についてご説明いたします。まず、具体的取組についてご説明いたします。

本年度から企業協賛・募金を開始するとともに、広報・県民運動等につきましても、キャラクターのチーバくんやイメージソングを活用した広報を行い、開催機運の一層の醸成を図るとともに県民総参加による大会を目指して、おもてなし活動の推進については温かく迎えたいと考え、大会運営ボランティアの募集・養成を進めてまいりました。次に、競技施設であります。19年度から改修工事を進めてきて、20年度は市町村施設のうち17施設の改修整備に対して補助したところがあります。また、県立施設についても館山運動公園野球場の改修整備等の実施設計を行い、ほぼ21年度までに施設整備がすべて終了するようにしたいと考えています。次に競技団体に対しては、これまで審判員や運営委員の養成について行ってまいりましたがこれに加えて21年度からは競技補助員の養成についても助成してまいります。また、来年度の大きなイベントといたしまして競技別リハーサル大会を実施いたします。平成21年5月の我孫子市の「なぎなた競技」を皮切りに21年度から22年度にかけて全体の39競技のうち32競技について実施する予定であります。最後に、式典実施計画ですが先ほど申し上げました開閉会式の式典について、実際の運営や式典演技の詳細プランについて式典実施要項の策定や式典音楽のCD及び楽譜集の製作等を行うこととしています。

次に全国障害者スポーツ大会についてですが、ボランティアの募集についてご報告させていただきます。大会運営を円滑にするため大会運営のボランティア、障害のある方への情報保障を行う情報支援ボランティア、選手団担当ボランティアの募集・養成をしてまいりたいと考えております。また来年度は各会場で障害に対する理解を深める交流の場となるふれあい広場を設置するための実施計画の策定を行う予定であります。また、各開閉会式会場や各競技会場のバリアフリー等の会場整備を進めていく準備をしているところであります。以上でございます。

【質問等】

委員 以前オリンピックで優勝したとき、会場に「〇〇さんおめでとう」という垂れ幕を作ってくれたことがあり、すごくうれしかった。それをまた、作っていただけたらすごく自信につながると思います。できればこの大会で作ってもらえないでしょうか。

事務局 先ほど説明したおもてなし活動の一環として、例えば選手に関する垂れ幕だとか、各小中学校に書いてもらったものを会場に設置したりしていくことなど、いろいろ考えていきたいと思っております。

委員 表彰式でオリンピックのメダリストが選手にメダルをかけてあげることはできませんか。

事務局 いろいろ検討させていただきたいと思っております。

委 員 炬火リレーというのはやらないのですか。

事務局 炬火リレーは今検討しているところであります。式典専門委員会の炬火リレー部会を作って検討しております。ただ県全体としての炬火リレーは難しいと考えています。各市町村の中で炬火リレー的なものやっていたらどうかと考えております。

委 員 前に会議に行ったときに、やらないようなことを聞きましたが、子どもたちの励みになるので是非やったほうがよいと思います。

委 員 集団演技はやらないのですか。

事務局 今現在、式典の内容をつめているところで、その中で歓迎の意味もこめていろいろな形で検討していきます。

委 員 マスゲームとか、ああいうものもやったほうがよいと思う。

委 員 マリンスタジアムが開会式会場になっていますが、従来の天台の陸上競技場と違い少し会場が変形であるという点について考えていかななくてはならないだろう。

事務局 入り口が少ないのでなかなか今までのようにはいかないところがあります。

委 員 それだけに、今までの国体にない新しさがあると思う。そこをぜひ生かしてほしい。

委 員 将来を考えて子どもたちの育成を考えた企画をぜひお願いしたい。

委 員 千葉県競技力向上推進本部事業というのは国体までのものなのですか。

事務局 今のところは国体を目標としてやっています。当然、国体が終わってもさらに続けるよう今後考えます。

委 員 多くの課題が出てきましたが、体育課としての喫緊の課題は何ですか。

事務局 国体に向けての競技力向上であります。

それでは以上で協議を終了いたします